

ANNUAL REPORT 2023



公益財団法人 日本水泳連盟
Japan Swimming Federation

CONTENTS

表2 目次

1	鈴木大地会長所信表
2	公益財団法人日本水泳連盟 理念・使命・行動指針
3	公益財団法人日本水泳連盟 組織図
4	公益財団法人日本水泳連盟 役職者・専門委員会
5	加盟団体一覧
6	公認プール一覧
7	公認企業・推薦企業
8	1) 競技運営推進事業／国内競技開催事業
10	／国際競技開催事業
11	／競技委員会事業
12	2) 競技運営推進事業／競技条件整備事業
13	／アンチ・ドーピング事業
14	3) 競技力向上事業／競泳強化事業
15	／飛込強化事業
16	／水球強化事業
17	／アーティスティックスイミング強化事業
18	／オープンウォータースイミング強化事業
19	／科学事業／医事事業
20	4) 普及事業／指導者養成事業／生涯スポーツ・環境事業
21	／オープンウォータースイミング普及事業／日本泳法保存事業
22	／機関誌発行事業・広報事業／アスリート委員会事業
23	2023年度日本新記録および学生・高校・中学・学童記録の公認
24	表彰関係／有功章
25	／選手コーチ
27	／優秀団体及び個人の表彰

表3 慶弔関係



2023年度は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類へと移行し、ようやく通常どおりに競技活動も実施できるようになりました。そして、皆さまのご協力により、22年ぶりの母国開催となった世界水泳選手権大会（福岡）も無事開催され、世界中から選手、チーム関係者等多くの方々が来日されました。大会を盛り上げていただいた国内外のメディアの皆さまの勤勉さと心のこもったご尽力にも改めて深く感謝申し上げます。今大会は、結果として、多くの参加選手と観客が集まり、高い水準の大会運営スキルと成熟した国民性を国内外に証明することになりました。今回の大会の成功が、日本の水泳レベル向上と水泳競技の裾野の拡大につながるとともに、選手や水泳ファンを超えて、より多くの人々が、水泳を通じて明るく健康的な未来へ向けた行動をさらに広めていただければ嬉しく思います。ご支援ご協力をいただいた協賛・スポンサー各社、加盟団体、関係団体の皆さまに對し、心より感謝と御礼を申し上げます。

選手派遣および選手強化事業では、世界水泳選手権大会（福岡）において、競泳がメダル2個（銅2）、飛込がメダル1個（銅1）、アーティスティックスイミング（AS）が金を含むメダル7個（金4、銀1、銅2）を獲得しました。世界水泳選手権大会（ドーハ）では競泳がメダル2個（金1、銅1）、ASはメダル2個（銀1、銅1）獲得し、さらにはASおよびオープンウォータースイミング（OWS）は、パリオリンピックの出場権を獲得することができました。アジア大会（杭州）では水球男子が53年ぶりのアジア王者に輝き、パリオリンピックの出場権を得ています。しかしながら、対世界で考えると、まだまだ課題の残る1年でもありました。戦績の評価と分析を通じて、競泳、飛込、水球、AS、OWSの全部門において、パリオリンピックでの活躍と今後の競技力向上に生かしてまいります。

競技大会開催事業では、世界水泳選手権大会（福岡）において証明した国際基準の質の高い大会運営を継続し、国際大会代表選手選考会をはじめ国内競技会において主管団体と連携して、全国で統一した高いレベルの競技会を実施しました。

競技条件整備事業では、競技者登録システム「WebSWMSYS」の安定稼働に注力するとともに、「記録サイト」の機能追加を実施しました。

普及事業では、指導者養成3委員会による協議・協働を継続し、スポーツ文化の創造およびスポーツの社会的価値向上に貢献できる指導者の養成、ならびに減少傾向にある指導者資格保有者数の維持・増加に取り組みました。また、加速する学校体育における水泳授業の民間委託や学校部活動の地域連携および地域スポーツクラブ活動への移行に関連した施策の検討も始めました。

そして、「水泳の日」や「泳力検定制度」、「スイムスマイルプロジェクト」を通じて、新型コロナウイルス感染症まん延時の影響による水泳離れに歯止めをかけ、水泳ファミリーの回復拡大に努めました。また、水泳を通じた教育や環境問題等社会に貢献する活動の一環として未来へつなげるプロジェクト「Wear to Fashion」を実施し、水着やチームウェア等を回収してリユース・リサイクルに繋げる取り組みをスタートしました。

組織運営のための共通事業では、「スポーツ団体ガバナンスコード〈中央競技団体向け〉」に基づく役員・評議員の改選を実施し、規程の見直し、会議や研修会を通じたガバナンスの強化、コンプライアンスの徹底、インテグリティの向上に努めました。

財務面では、諸経費の削減努力に加えてさらなる自主財源の確立に注力し、マーケティング活動、および免税募金などにより、競技力向上事業補助金の減額や物価高騰による支出の増加による減収を最小限に食い止め、本年度事業への充当財源を確保することができました。

結びになりますが、創立100周年を迎え、新たなステージへの挑戦と日本水泳界の未来に向けて、各加盟団体と情報共有および意思疎通を密に図り、水泳界が一丸となった「オールジャパン体制」をより強固なものにしてまいります。皆さまのなお一層のご支援ご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

2024年6月23日

会長 鈴木 大地

理 念 PHILOSOPHY

水泳を通じて、国民の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する

使 命 MISSION

強化：センターポールに日の丸を！

競技力向上に努め、センターポールに日の丸を掲げ、人々に勇気と希望を与える。

普及：国民皆泳

水泳の普及に努め、国民皆泳を実現し、人々の健康保持・増進と水難事故防止に貢献する。

行動指針 PRINCIPLE

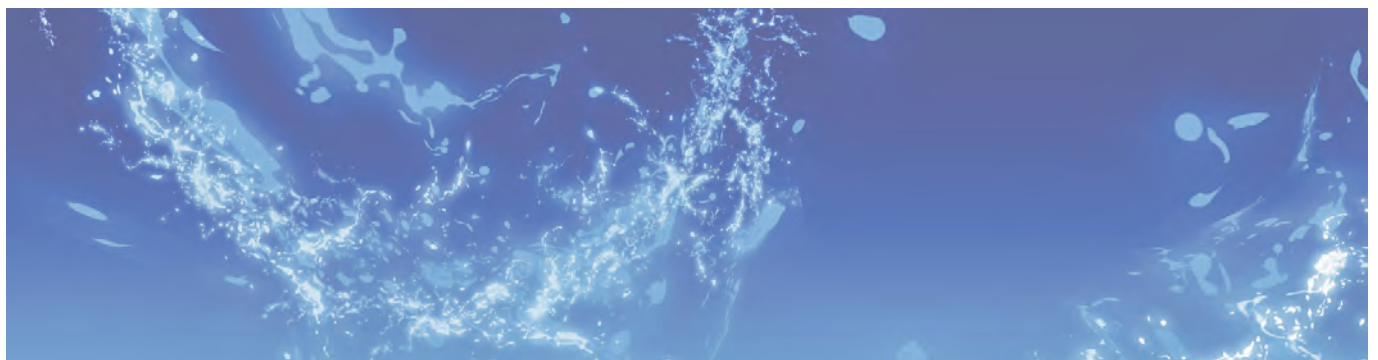
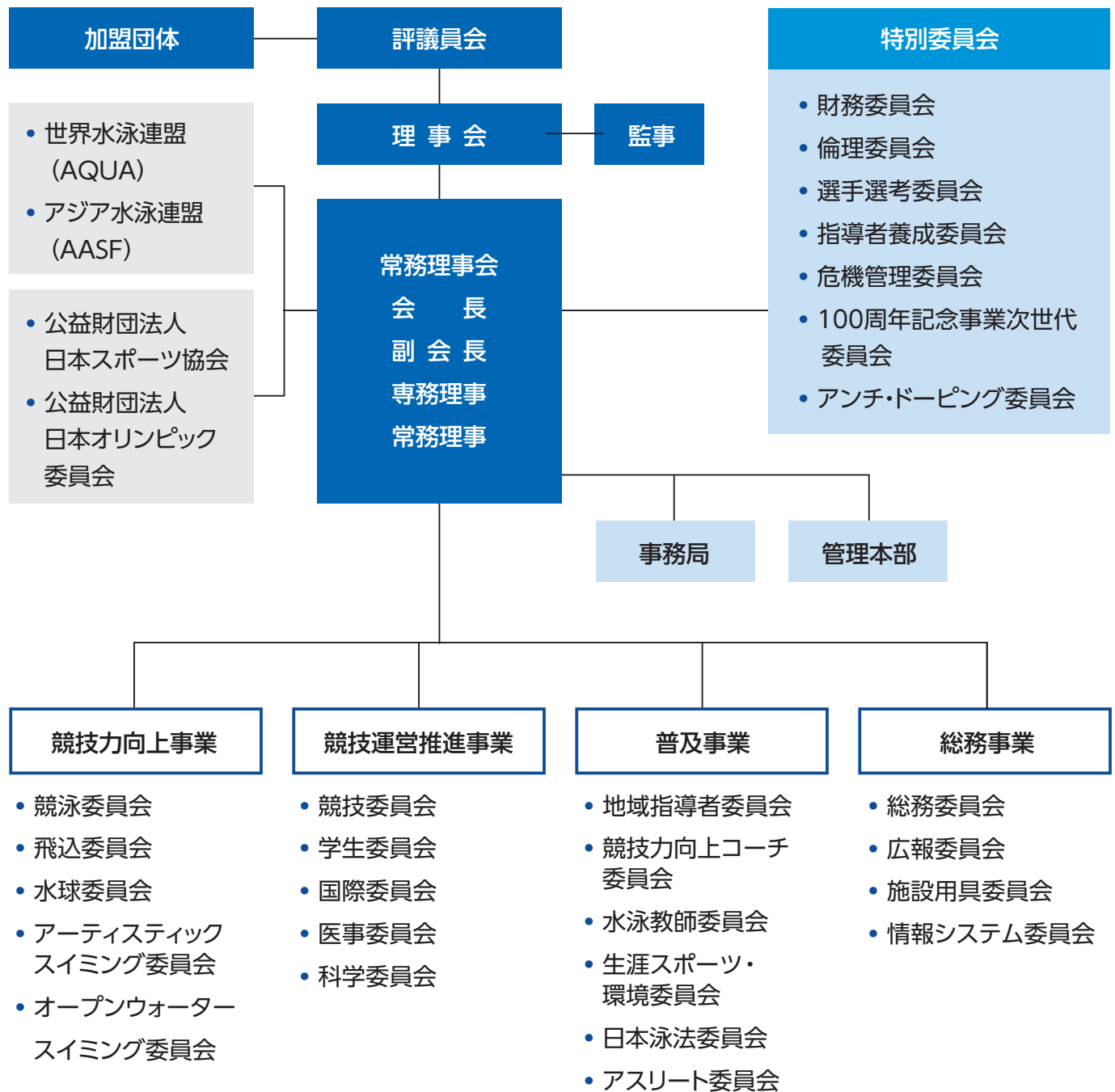
競技力の更なる高みを目指す

水泳の楽しさと喜びを伝える

水泳を通じた教育と交流の輪を広げる

水泳ニッポンの歴史と伝統を明日へつなぐ

公益財団法人日本水泳連盟 組織図



公益財団法人日本水泳連盟 役職者・専門委員会

2023・2024年度 公益財団法人日本水泳連盟役職者名簿

会 長	鈴木 大地
副 会 長	齋藤 由紀
副会長兼専務理	金子日出澄
常務理事	村松さやか
常務理事	丸笹公一郎
常務理事	八塚 明憲
常務理事	山根 一寿
理 事	安保 美幸
理 事	河原 泉
理 事	水島千江子
理 事	内田孝太郎
理 事	三宅 泉
理 事	菊池日出子
理 事	野崎由美子
理 事	升味佐江子
理 事	村上 富栄
理 事	村崎 直子
監 事	嶋岡 正和
監 事	千葉かおり

【競技力向上事業】

競泳委員長	梅原 孝之
飛込委員長	野村 孝路
水球委員長	峰岸 克行
アーティスティック スイミング委員長	山田 智子
オープンウォーター スイミング委員長	原 怜来

【競技運営推進事業】

競技委員長	八塚 明憲
学生委員長	三友 礼人
国際委員長	緒方 茂生
医事委員長	元島 清香
科学委員長	高橋 篤史

【普及事業】

地域指導者委員長	高橋 宗良
競技力向上コーチ 委員長	奥野 景介
水泳教師委員長	益子 一穂
生涯スポーツ・環境 委員長	岩崎 恭子
日本泳法委員長	山根 一寿
アスリート委員長	田中 穂徳

【総務事業関係】

総務委員長	丸笹公一郎
広報委員長	田坂 友暁
施設用具委員長	牛窪 俊之
情報システム委員長	濱崎 泰造



加盟団体一覧

北海道・東北

一般財団法人北海道水泳連盟
一般社団法人青森県水泳連盟
一般社団法人岩手県水泳連盟
一般財団法人宮城県水泳連盟
一般社団法人秋田県水泳連盟
一般社団法人山形県水泳連盟
一般社団法人福島県水泳連盟

関東

一般社団法人茨城県水泳連盟
一般社団法人栃木県水泳連盟
一般社団法人群馬県水泳連盟
一般社団法人埼玉県水泳連盟
一般社団法人千葉県水泳連盟
公益財団法人東京都水泳協会
一般社団法人神奈川県水泳連盟
一般社団法人山梨県水泳連盟

信越・北陸

一般社団法人長野県水泳連盟
一般財団法人新潟県水泳連盟
一般社団法人富山県水泳連盟
一般社団法人石川県水泳協会
一般財団法人福井県水泳連盟

東海

一般社団法人静岡県水泳連盟
一般社団法人愛知県水泳連盟
一般社団法人三重県水泳連盟
一般社団法人岐阜県水泳連盟

近畿

一般社団法人滋賀県水泳連盟
一般社団法人京都水泳協会
一般財団法人大阪水泳協会
一般社団法人兵庫県水泳連盟
一般社団法人奈良県水泳連盟
一般社団法人和歌山県水泳連盟

中国

一般財団法人鳥取県水泳連盟
一般財団法人島根県水泳連盟
NPO法人岡山県水泳連盟
一般財団法人広島県水泳連盟
一般財団法人山口県水泳連盟

四国

一般社団法人香川県水泳協会
一般社団法人徳島県水泳連盟
一般社団法人愛媛県水泳連盟
一般社団法人高知県水泳連盟

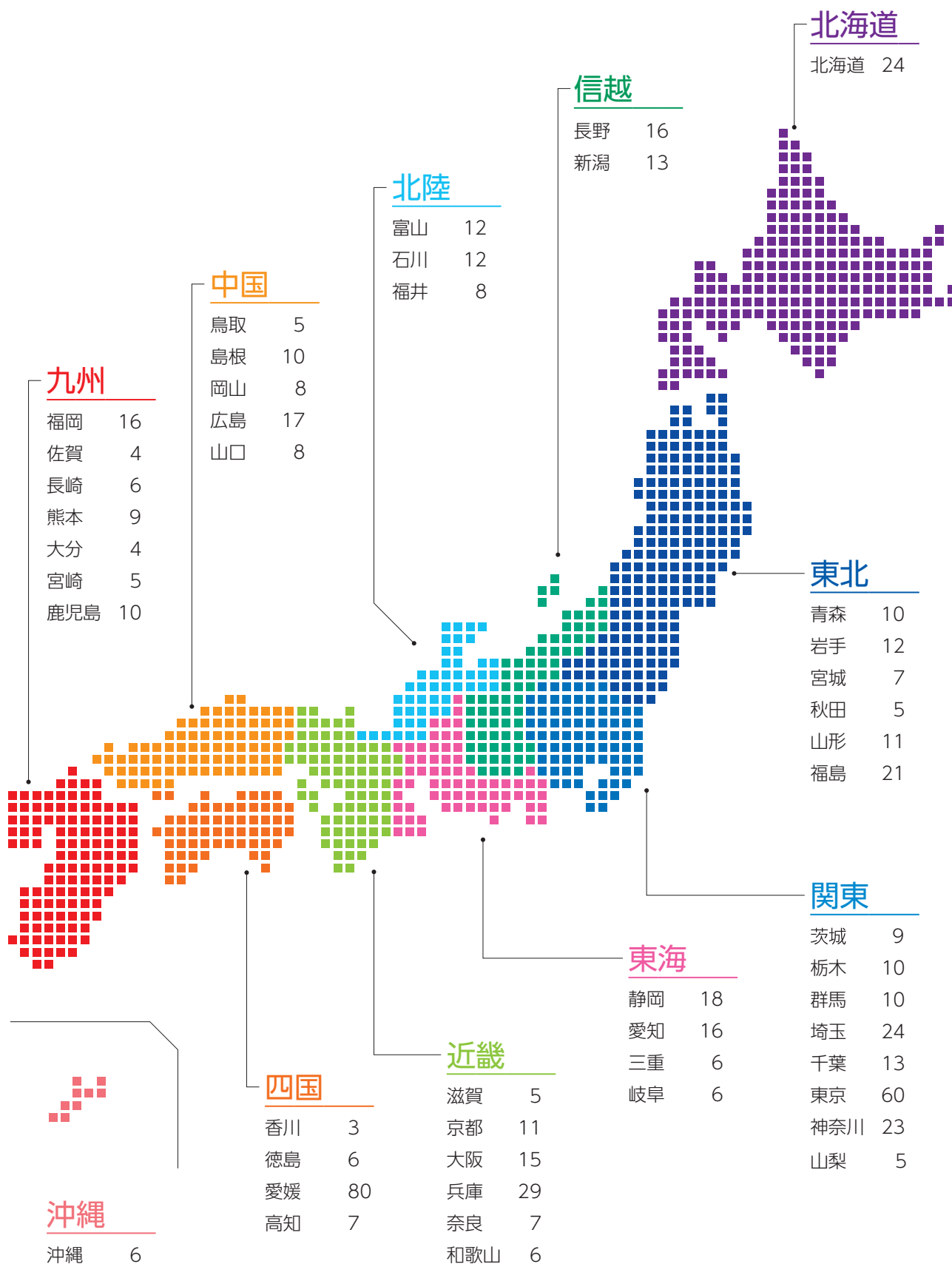
九州

一般社団法人福岡県水泳連盟
一般社団法人佐賀県水泳連盟
一般社団法人長崎県水泳連盟
一般社団法人熊本県水泳協会
一般社団法人大分県水泳連盟
一般財団法人宮崎県水泳連盟
一般社団法人鹿児島県水泳連盟
一般社団法人沖縄県水泳連盟

関連団体

一般社団法人日本スイミングクラブ協会
一般社団法人日本マスターズ水泳協会
一般社団法人日本パラ水泳連盟

公認プール一覧



公認企業・推薦企業

公認企業

商 品 種 類	会 社 名	商 標 等
レーンロープブイ	ツカサドルフィン株式会社	ツカサ防波フロート
	リス興業株式会社	レーンマーカー
	株式会社ウィーク	レーンロープ スウェーデン マルムステン社製レーンロープ150φタイプ
水球ボール	株式会社ミカサ	ミカサウォーターポロボール
自動審判計時装置	セイコータイムクリエーション株式会社	SFAA PT-7000 PT-8000

推薦企業

商 品 種 類	会 社 名	商 標 等
ステンレスプール	株式会社アクアプロダクト	アクアプール ミルタプール
	株式会社三井三池製作所	三井オールステンレスプール
FRPプール	ヤマハ発動機株式会社	ヤマハFRPプール
水泳プール浄化装置	一般社団法人 日本浄水機械工業会	正会員17社
水泳帽	フットマーク株式会社	フットマーク 水泳帽
水球帽	フットマーク株式会社	フットマーク 水球帽
防滑性ビニル床シート	タキロンシーアイ株式会社	タキストロン
プール可動床システム	高橋カーテンウォール工業株式会社	TCWアクアシステム
スポーツ施設の企画・管理 運営業務システム	株式会社日本水泳振興会	
	株式会社オーエンス	
	株式会社フクシ・エンタープライズ	
水深調整台 プールフロアー	リス興業株式会社	水深調整台 プールフロアー
プール可動床の設計・工事施工	株式会社石森製作所	ダナップ レインボー
	日鉄テックスエンジニアリング株式会社	
オープンウォータースイミング用安全浮き具	ミズノ株式会社	ミズノエクサフラットブイ
プール用タイル	株式会社ブレイン	interbau by STEULER社 プール用タイル
練習用スイムウェア	山本化学工業株式会社	ゼロポジションシリーズ
スポーツタイマー	ツカサドルフィン株式会社	スポーツタイマー
ゴーグル	株式会社タバタ	VIEWゴーグル
	山本光学株式会社	SWANSゴーグル
物理療法機器	伊藤超短波株式会社	物理療法機器シリーズ
イベント装飾等の生花	株式会社花門フラワーゲート	
着脱式バンク	ツカサドルフィン株式会社	公認プール対応着脱式バンク
クラウチング型着脱式スタート台	ツカサドルフィン株式会社	公認プール対応クラウチング型着脱式スタート台
水球競技用ゴール	ツカサドルフィン株式会社	ANTI水球ゴール TWP-B334、B301、B223
プール建築の設計・監理及び工事監督業務	株式会社大建設	
プール施設建築の設計監理	株式会社隈研吾建築都市設計事務所	
飛込競技用飛板及び飛板スタンド	株式会社ジェーフアイブ	飛板（ダイビングボード）及び飛板スタンド
	株式会社ウィーク	米国デュラフレックスインターナショナル社製
LEDライト	パナソニック株式会社	プール用LED投光器
プール用耐火・吸音・断熱・耐水屋根システム	株式会社一原産業	フォーベストボード
免振・耐震工法・地盤対策システム	東洋ベース株式会社	
輻射式冷暖房システム	株式会社エコファクトリー	ecowin、ecowinHYBRID、外気処理システムecowinエアー
業務用除菌・抗菌製品	エーザイ株式会社	Eプロ イータック

1) 競技運営推進事業／国内競技開催事業

2023年5月に新型コロナウイルス感染症が5類相当に変更され、競技大会も有観客で行われるようになるなどコロナ禍前の状況に戻りました。その中でも今年度の最大のイベント・世界水泳選手権大会（福岡）が二度の延期を経て開催され、無事に終了できましたことは主催者である世界水泳連盟（AQUA）とNTOを含む本連盟派遣委員、組織委員会、福岡県実行委員会を始め、ボランティアの方々に至るまですべての関係者に心より御礼申し上げます。

また、それぞれの競技において、全国規模の競技会が本連盟本部役員・派遣競技役員、開催地の実行委員会、加盟団体競技役員が連携して競技運営に当たり、成功に導くことができました。参加された全ての選手の健闘をたたえとともに、関係各位のご協力に心から感謝申し上げます。

1. 国内競技開催事業

第99回日本選手権水泳競技大会競泳競技は、改修工

事を経て新装された東京アクアティックスセンター（TAC）を会場として4月4日から世界水泳選手権代表選考会を兼ねて6日間実施されました。今回は初めての試みとして飛込競技と同時開催となりましたが、競技時間帯を工夫するなどして成功することができました。

またジャパンオープンの開催時期をずらすと同時に、パリオリンピック等の国際大会代表選手選考会をこれまでの4月開催の日本選手権よりも早めて2023年度内の3月17日から8日間で実施しました。

主催・公認競技大会の開催には当たっては、主管・共催団体との連絡調整を緊密に行い、企画・立案・運営・予算管理を徹底し、準備から大会終了までを統括しました。それぞれの選手が自己の持てる力を最大限発揮できる競技会を実現することができました。

4年ぶりの有観客での実施でしたが、観客の数が減少しジャパンオープンでは空席が目立つ残念な結果となりました。コロナ禍で離れた水泳ファン、特に子どもたちを含む来場者を増やし魅力ある競技会にしていこう工夫の必要性を感じました。

（各競技の開催日ならびに会場は下記のとおりです）

大会名	開催日程	会 場	参加者数
第99回日本選手権水泳競技大会 （競泳競技）	4月4日（火） ～9日（日）	東京都 東京アクアティックスセンター	参加団体 322 男子421／女子327
翼ジャパンダイビングカップ2023 （飛込競技）	4月4日（火）～ 9日（日）	東京都 東京アクアティックスセンター	参加団体 36 男子 36／女子 42
第99回日本選手権水泳競技大会 （AS競技）	5月1日（月）～ 3日（水）	東京都 東京アクアティックスセンター	参加団体 14 男子 6／女子140
日本ASチャレンジカップ2023 （AS競技）	6月9日（金）～ 11日（日）	東京都 東京アクアティックスセンター	参加団体 27 男子 9／女子188
OWSオーシャンズカップ2023 （OWS競技）	6月11日（日）	千葉県 館山市北条海岸	参加団体 43 男子 52／女子 39
第68回日本大学・中央大学対抗水泳競技大会 （競泳競技）	7月1日（土）	東京都 東京アクアティックスセンター	参加団体 2+JAPAN 男子149／女子 45
第95回早慶対抗水上競技大会 （競泳競技）	7月2日（日）	東京都 東京アクアティックスセンター	参加団体 2+JAPAN 男子142／女子 28
第70回全国国公立大学選手権水泳競技大会 （競泳競技）	8月11日（金）・ 12日（土）	新潟県 ダイエープロビスフェニックスプール	参加団体 92 男子612／女子337
第91回日本高等学校選手権水泳競技大会 （競泳競技）	8月17日（木）～ 20日（日）	北海道 野幌総合運動公園	参加団体 367 男子858／女子760
// （飛込競技）	8月17日（木）～ 19日（土）	栃木県 日環アリーナ栃木	参加団体 45 男子44／女子42
// （水球競技）	8月17日（木）～ 20日（日）	北海道 札幌市平岸プール	参加団体 男子20／女子2 男子252／女子21
第63回全国中学校水泳競技大会 （競泳競技）	8月17日（木）～ 19日（土）	香川県 県立総合水泳プール	参加団体 460 男子404／女子408
// （飛込競技）	8月17日（木）～ 19日（土）	香川県 県立総合水泳プール	参加団体 39 男子35／女子43
第46回全国JOC ジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会 （競泳競技）	8月22日（火）～ 26日（土）	東京都 東京アクアティックスセンター	参加団体 54 男子1,565／女子1,417
// （飛込競技）	8月22日（火）～ 25日（金）	大阪府 丸善インテックプール	参加団体 92 男子 54／女子 83

大会名	開催日程	会 場	参加者数
第46回全国JOC ジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会 (水球競技)	8月22日(火)～ 26日(土)	京都府 京都アクアリーナ	参加団体 男24/女32/混合24 男子 559/女子 382
// (AS競技)	8月22日(火)～ 25日(金)	神奈川県 横浜国際プール	参加団体 27
第99回日本学生選手権水泳競技大会 (競泳競技)	8月31日(木)～ 9月3日(日)	東京都 東京アクアティクスセンター	参加団体 99 男子 819/女子477
// (飛込競技)	9月9日(土)・ 10日(日)	大阪府 A S u e大阪プール	参加団体 23 男子 16/女子 21
// (水球競技)	9月1日(木)～ 3日(日)	神奈川県 横浜国際プール	参加団体 男子16/女子8 男子 294/女子 101
// (第12回マーメイドカップ) (AS競技)	9月3日(日)	神奈川県 横浜国際プール	参加団体 20 男子 3/女子 35
// (OWS競技)	8月26日(土)・ 27日(日)	千葉県 館山市北条海岸	参加団体 31 男子 78/女子 33
日本ス ポーツマスターズ2023	8月26日(土)・ 27日(日)	福井県 敦賀市総合運動公園プール	参加団体 38
第99回日本選手権水泳競技大会 (飛込競技)	9月1日(金)～ 3日(日)	栃木県 日環アリーナ栃木	参加団体 45 男子 39/女子 41
特別国民体育大会水泳競技大会 (競泳競技)	9月22日(金)～ 24日(日)	鹿児島県 鴨池公園水泳プール	参加団体 47 男子 550/女子 442
// (飛込競技)	9月18日(月)～ 20日(水)	鹿児島県 鴨池公園水泳プール	参加団体 34 男子 40/女子 37
// (水球競技)	9月17日(日)～ 20日(水)	鹿児島県 鴨池公園水泳プール	参加団体 男子16/女子12 男子 174/女子 130
// (AS競技)	9月16日(土)	鹿児島県 鴨池公園水泳プール	参加団体 18 女子 34
// (OWS競技)	9月18日(月)	鹿児島県 屋久島町一湊海岸特設会場	参加団体 46 男子 44/女子 44
第38回日本マスターズ水泳選手権大会	9月14日(木)～ 18日(月)	石川県 金沢プール	参加団体 990 男子1,515/女子1,315
日本選手権最終予選会 (水球競技)	10月13日(金)～ 15日(日)	静岡県 浜松市総合水泳場	参加団体 男12/女12 男子 171/女子 170
第65回日本選手権(25m)水泳競技大会	10月21日(土) 22日(日)	東京都 東京アクアティクスセンター	参加団体 224 男子 286/女子 221
第99回日本選手権水泳競技大会 (水球競技)	10月26日(木)～ 28日(土)	東京都 東京アクアティクスセンター	参加団体 男子 8/女子 8 男子 116/女子 112
第99回日本選手権水泳競技大会 (OWS 競技)	11月4日(土)・ 5日(日)	千葉県 館山市北条海岸	参加団体 77 男子 99/女 63
第6回日本社会人選手権水泳競技大会	11月11日(土)・ 12日(日)	新潟県 ダイエープロビスフェニックスプール	参加団体 217
ジャパンオープン 2023 (50m)	11月30日(木)～ 12月3日(日)	東京都 東京アクアティクスセンター	参加団体 322 男子 469/女子 363
第16回全日本ユース(UI6)水球選手権大会 (桃太郎カップ)	12月24日(日)～ 27日(水)	岡山県 倉敷市屋内水泳センター児島地区公園水泳場	参加団体 男子16/女子16 男子 229/女子 201
第27回ユースソロ・デュエット大会	1月27(土)	東京都 東京アクアティクスセンター	参加団体 19 男子 2/女子 59
A S ナショナルトライアル2024	1月28(日)	東京都 東京アクアティクスセンター	参加団体 18 男子 3/女子 100
第10回全日本ジュニア(UI7)水球競技選手権大会 (かしわぎ潮風カップ)	3月17日(日)～ 20日(水)	新潟県 県立柏崎アクアパーク	参加団体 男子16/女子12 男子 194/女子 137
国際大会代表選手選考会	3月17日(日)～ 24日(日)	東京都 東京アクアティクスセンター	参加団体 341 男子 478/女子 331
第46回全国JOCジュニアオリンピックカップ 春季水泳競技大会(競泳競技)	3月27日(水)～ 30日(土)	東京都 東京アクアティクスセンター	参加団体 801 男子1,880/女子1,589
// (飛込競技)	3月29日(金)・ 30日(土)	栃木県 日環アリーナ栃木	参加団体 20 男子 13/女子 34
// (水球競技)	3月26日(火)～ 30日(土)	千葉県 千葉県国際総合水泳場	参加団体 中男24/中女16/小男女24 男子 576/女子 227

2. 国際競技開催事業

2度の延期となった世界水泳選手権大会（福岡）は、191か国から2,361名の選手が参加し17日間に及ぶ熱戦が繰り広げられました。22年ぶりの国内開催となった本大会では、10個の世界新記録が生まれ、久しぶりの有観客の大声援の中、大きな盛り上がりを見せました。

（各競技の開催日ならびに会場は下記のとおりです）

競泳 Swimming	
世界水泳選手権大会（福岡） 福岡県 マリンメッセ福岡 A館 7月23日（日）～30日（日）	男子 609
参加国 189	女子 488

飛込 Diving	
世界水泳選手権大会（福岡） 福岡県 県立総合プール 7月14日（金）～22日（土）	男子 145
参加国 50	女子 114

水球 Water Polo	
世界水泳選手権大会（福岡） 福岡県 マリンメッセ福岡 A館 7月16日（日）～29日（土）	男子 240
参加国 男子16／女子16	女子 240

AS Artistic Swimming	
世界水泳選手権大会（福岡） 福岡県 マリンメッセ福岡 A館 7月14日（金）～22日（土）	男子 22
参加国 52	女子 318

OWS Open Water Swimming	
世界水泳選手権大会（福岡） 福岡県 シーサイドももち海浜公園 7月20日（木）	男子 72
参加国 男子44／女子43	女子 62

飛込 High Diving	
世界水泳選手権大会（福岡） 福岡県 シーサイドももち海浜公園 7月25日（火）～27日（木）	男子 24
参加国 19	女子 20

各競技において、AQUA派遣のITOと国内選出のNTOが協力し、出場選手の高いパフォーマンスを引き出すことができたものと思います。と同時に、開催地の福岡大会組織委員会、（一社）福岡県水泳連盟と本連盟から派遣される競技役員が協力して、各競技が円滑に実施できるように力を尽くし、世界に誇る日本の競技運営力の高さを示すことにもなりました。

1. 競技事業

競技委員長の交代により、これまでのすべての競技を委員長が統括していた方式から各競技の委員長が中心となって運営する形に変更し、競技委員会の会議運営方法を改めました。全国大会の開催にあたっては、各大会の開催地、加盟団体、(公財)日本スポーツ協会(JSPO)、(公財)全国高等学校体育連盟、(公財)日本中学校体育連盟などと連絡調整を図りました。特に地方開催となる全国大会では、1年前から開催地への競技会指導を実施し、会場レイアウトから選手動線、競技役員の動きに至るまで実地で指導を行いました。

2. 学生競技会事業

第70回全国国公立大学選手権水泳競技大会は、コロナ禍の影響を受けることなく開催することができまし

た。なお、コロナ禍対策として実施した公式練習日を利用してリレー種目を1日1競技・タイムレース決勝とする施策については当面継続することとしました。

第99回日本学生選手権水泳競技大会(インカレ)は、TACで初めて競泳競技を開催し、競技順序を変更、本年度より4日間開催としました。新型コロナウイルス感染症の5類移行を受けて、久々に場内に学生たちの声援が響く活気あふれる大会となりました。また本年度より新たにOWS競技を実施しました。

また、ドーピング違反の再発防止のため「アンチ・ドーピング講習会」を(公財)日本アンチ・ドーピング機構(JADA)のeラーニングシステムを活用し学生に受講させました。その他、飲酒や暴力、ハラスメント等、学生のみならず指導者も含めて啓発活動を行いました。

学生の競技役員養成を継続し、世界水泳選手権大会(福岡)、日本選手権等へ派遣し、本連盟の主催競技会の開催支援も行いました。



2) 競技運営推進事業／競技条件整備事業

1. 競技者登録事業

水泳競技大会への参加者および記録を管理するため、競技者（選手、団体）の登録管理の安定化を図る事業を推進しました。Web-SWMSYSは、2023年度は刷新を行い、データベースの再構築、機能の見直し、デザインの変更を行いました。

2. 競技規則制定事業

2023年4月から、新たな競泳競技規則を施行しました。「競泳競技規則・競技役員の手引き」を全面的に改訂し、発刊しました。全国競技委員長会議は4月に開催された日本選手権の期間にリモート会議形式で開催し、改訂内容の周知を行いました。また競泳以外の各競技では、改訂されたAQUAの規則を踏まえて新たな国内規則の制定作業を進め、2023年度内に改訂を終了しました。今回、各競技共通で「抗議」に関する規則を定め、抗議料変更や抗議発生からその処理に至る一連の手続きの統一性を図りました。

3. 競技役員養成・登録事業

公認競技役員・審判員養成のためのブロック研修会ならびに加盟団体主催の講習会は、リモート形式や会場を工夫するなどして全て予定通り実施できました。今年度は競技規則の改訂初年度で、改訂内容について周知を図りました。また、本連盟の主催大会における加盟団体競技委員長などの実技研修も予定通りに実施しました。

競泳では、日本選手権、日本選手権（25m）、ジャパンオープンの3大会に加えて、国際大会代表選手選考会も実技研修対象競技会とて、全国各都道府県から合計124名の競技役員が参加しました。参加者が最新の

運営方法について研修し、各加盟団体に持ち帰ることで、全国で共通した競技会運営が浸透する一助となりました。今後も、競技役員資格取得者数を維持して、本連盟の方針や競技会運営の方法を全国各地に浸透させるための取り組みを継続します。

4. 競技記録公認・管理事業

(1) 競技結果公認報告

競技者の公認記録の競技結果を管理する事業を行いました。加盟団体の協力により、3日以内の公認記録の結果報告は定着しつつあります。

(2) 超速システム

運用実施率の向上に取り組み、半数以上の加盟団体で実施されました。超速システムの老朽化に伴い、刷新へ向けたシステムの見直しを行い、バックエンドの開発を行いました。

(3) 記録管理

構築した記録報告サイトを活用し、公認大会競技結果の記録管理および記録報告システムの安定化を推進しました。

5. 施設用具公認事業

(1) 競技場であるプールおよび競技に係る施設用具に関して、公認規則に基づき審査し公認する事業を行いました。

公認プール	50m	25m	飛込	水球	標準
新 規	4件	2件	0件	0件	0件
再 公 認	35件	57件	7件	1件	0件

(2) 「水泳および水泳競技に使用される用器具類やシステム等の公認・推薦規程」に基づく推薦商品認定を行いました。



／アンチ・ドーピング事業

1. 主催・主管大会でのドーピング検査事業

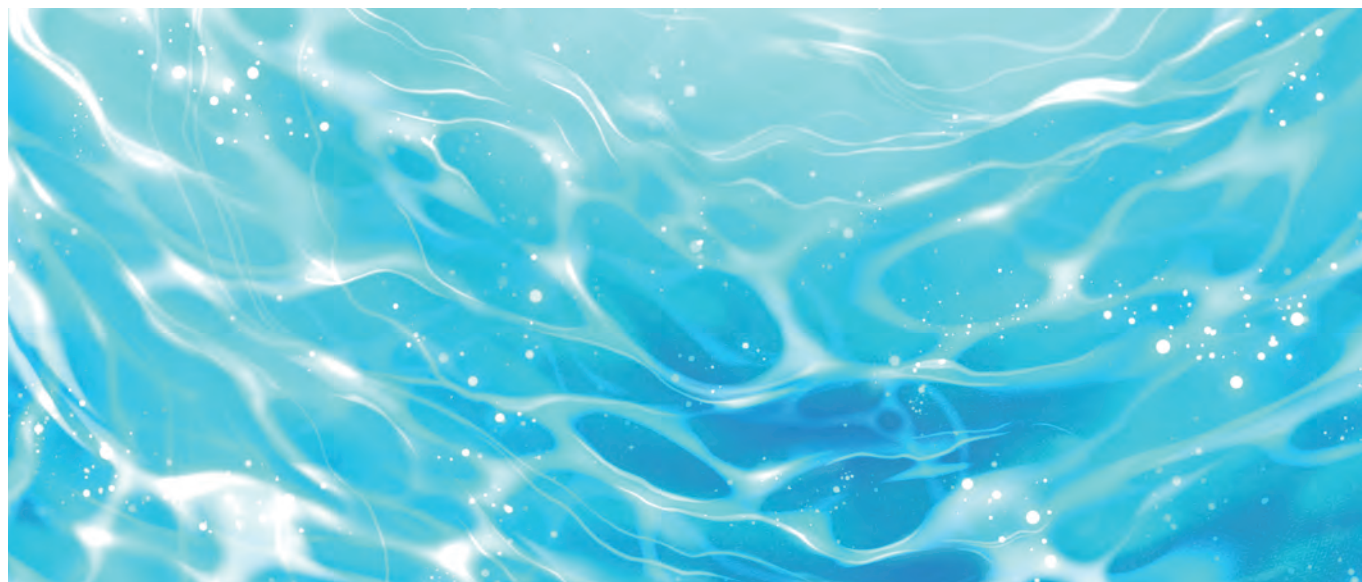
JADAと連携し、主催大会においてドーピング検査（競技会検査）を実施し、選手の権利を守る立場である国内競技団体（NF）代表役員をドーピング検査会場に派遣しました。なお検査対象者はJADAの指示によって指定や抽選で決定しました。

2. その他の事業

- (1) ホームページ掲載資料作成、治療使用特例（TUE）書類審査
 - ・本連盟HPおよび競技会掲載用のアンチ・ドーピング資料の作成。
（内容は全国大会出場レベル選手から国際大会出場レベル選手向け）
 - ・JADAから通達のあった連絡事項を本連盟HPにも掲載し注意喚起の実施。
 - ・選手より届いたTUE申請の書類チェック、およびITA、JADAへの提出確認。
- (2) 強化合宿・研修会などへの講師派遣
 - ・連盟強化合宿中やコーチ研修会にて、JADA承認クリーンスポーツEducator資格保有者によるアンチ・ドーピング講習会の開催。
- (3) 競技会へのスポーツファーマシストの派遣
競技会にスポーツファーマシストを派遣し、出場選手・コーチ向けにアンチ・ドーピングのアウトリー

チおよび薬の使用についての相談を目的にブースを設置。

- (4) JADA会議へのNF代表役員としての参加
 - ・年数回開催されるJADAの連絡会議およびシンポジウムなどに参加し最新情報を収集。
- (5) JSPO公認水泳コーチ研修会にて
 - ・アンチ・ドーピング活動に関する講義を行い、コーチに対する啓発活動の実施。
- (6) スポーツファーマシストによる医薬品相談・ホットライン体制
 - ・本連盟独自に本連盟HP上で医薬品使用可否に関する相談対応を実施。
 - ・年間200件程度の問合せに対応。
- (7) JADA承認Educator候補者
 - ・NF主催のアンチ・ドーピング講習の担当講師はJADA承認クリーンスポーツEducatorであることが求められるようになったため、アンチ・ドーピング委員会からEducator候補者を輩出し、JADAの研修会に参加し複数名のクリーンスポーツEducatorを登録。
- (8) 学術活動
第25回水と医学研究会にて上記活動（6）を検討し、演題「日本水泳連盟『薬の相談窓口』への問い合わせ内容および利用者に関する集計報告」を発表。



3) 競技力向上事業／競泳強化事業

1. 競泳強化事業

2023年はパリオリンピック前年として多くの重要大会が実施されました。

世界水泳選手権大会（福岡）は、国際大会経験を積むことを目的に、男子20名・女子20名計40名の世界水泳選手権大会としては過去最高人数の選手団を組みました。しかしながら結果は、金メダル獲得に至らず、銅メダル2個、4位から8位入賞は16種目、入賞率は31.6%と課題が残りました。

第31回ワールドユニバーシティゲームズは32名の選手団で、金メダル4個・銀メダル8個・銅メダル5個を獲得しました。

第19回アジア大会は38名の選手団で、金メダル5個・銀メダル10個・銅メダル15個を獲得しました。世界ジュニア選手権大会2023（ネタニア）は13名の選手団で、金メダル1個・銀メダル3個・銅メダル3個を獲得しました。

世界水泳選手権大会（ドーハ）は、オリンピック選考会の1カ月前という時期でもありましたので、希望する選手から選拔し、男子9名・女子3名、計12名の選手団で競技会強化という方針で派遣しました。結果は金メダル1個・銅メダル1個を獲得し、4位から8位入賞は7種目、入賞率は32.1%と福岡で取れなかった金メダル獲得が成果でした。

第11回アジアエージ選手権は20名の選手団で金メダル36個・銀メダル20個・銅メダル5個を獲得しました。今年度は多くの国際大会が行われ、世界水泳選手権大会（ドーハ）と第19回アジア大会はトップ選手、第31回ワールドユニバーシティゲームズは大学生中心、世界ジュニア選手権大会2023（ネタニア）は主に高校生以下のジュニア選手、第11回アジアエージ選手権は中学生のみの編成として、大会に合わせて各年代の国際大会派遣を実施することができました。

世界水泳選手権大会
福岡



第31回ワールド
ユニバーシティゲームズ



第19回アジア大会



世界ジュニア選手権大会
ネタニア



世界水泳選手権大会
ドーハ



第11回アジアエージ選手権



2. 飛込強化事業

2023年度はパリオリンピックでのメダル獲得を目標に「競技会強化」「重点強化」「拠点強化」を軸としました。

「競技会強化」では、世界水泳選手権大会（福岡）において8種目に9名を派遣、結果、**6種目で入賞**を果たし、男子高飛び込み・玉井陸斗、女子高飛び込み・荒井祭里、女子飛板飛込・三上紗也可の**3名がパリオリンピック代表内定**を果たしました。さらにMIXシンクロ高飛込・伊藤洸輝・板橋美波は21年ぶり銅メダルを獲得する快挙を成し遂げました。

また世界水泳選手権大会（ドーハ）では男子飛び板飛び込み・坂井丞、女子飛び板飛び込み・榎本遼香が決勝進出を果たしオリンピック代表内定となり、歴代最多の5名のオリンピックが誕生しました。

9月中国杭州で開催されたアジア大会では、男子高飛込の玉井陸斗、女子飛板飛込の三上紗也可、女子シンクロ高飛込の板橋美波・新井祭里のペアが3位に入

賞を果たしました。

ジュニア強化においては、12月のアジアエージ選手権大会を重要大会と位置付け、全種目上位入賞を目標に、技術力・精神力に長けた勝負強い選手の早期育成を目的として6名の選手の派遣を計画しました。しかし2024年3月まで開催が延期となり非常に厳しい取り組みとなりました。そのような中で、二羽倅駕や乗松飛羽などが複数種目で優勝し、チームとしても**参加国中メダル獲得1位、全員がメダル獲得**となる活躍を見せました。

強化としては過去の実績を基に、男子高飛込・玉井陸斗、女子3m飛板飛込・三上紗也可の強化を「メダルポテンシャルアスリート」と位置づけ、日本飛込界全体で長期的、かつ重点的に強化・支援を継続推進し、そのための拠点強化は、これまでの石川県、三重県、静岡県の公共プールに加え、飛込に特化した室内練習施設を完備した栃木県の日環アリーナ栃木を「JOC競技別強化拠点」として活用しました。



メダルポテンシャルアスリート



世界水泳選手権 福岡（銅1、入賞6）



アジア大会（銀1、銅2）

世界水泳選手権
ドーハ（入賞2）

3. 水球強化事業

2023年度は、パリオリンピックのアジア大陸予選を兼ねたアジア大会優勝を男女の目標として臨みました。

7月には福岡で世界水泳選手権大会が開催され、男子は11位、女子は14位となりました。男子は第3ピリオドで失点を重ねてしまう傾向が出てその対策が急務となります。

アジア大会では、男子は53年ぶりの優勝でパリオリンピック出場権を獲得しました。女子は急速2名の引退者が出て、11名での出場を余儀なくされ、世界水泳選手権大会（福岡）からチーム力を上げて挑んだものの、数的不利益もあり決勝で中国に敗れて2位、残念ながらオリンピック出場権を逃しました。

2月に男子は世界水泳選手権大会（ドーハ）に出場し、6カ月前の世界水泳選手権大会（福岡）での課題「後半の戦い方の工夫」をテーマとし欧州勢相手に

前半ゾーンディフェンス中心で拮抗した戦いがありました。そうした収穫があったもののやはり後半に連続失点を許し、順位は13位でした。これは後半でパスライン戦術への移行切り替えがスムーズにいかず、連係ミスが発生したことが要因と分析し、戦術を再度見直してバりに挑みます。また、本大会では左利きの若手選手を登用し、決定率が上がらなかった退水ゾーンオフENSEのパス回しのテンポが速くなり、攻撃のバリエーションが増やせた成果は大きいと言えます。

年代別では3月に2024、25年の国際大会アジア予選を兼ねた男女U17アジアエージ選手権大会がフィリピンで開催され派遣できました。男女とも優勝し、国際大会参加権利を獲得、男子MVPには井上皆が選出されました。2023年度水球委員会は、長期課題として①広報戦略②スタッフ処遇確保③財務基盤構築④アクアゲーム展開⑤専門強化拠点⑥国内競技会の見直しの6つを位置づけ、今後も具体的な対策立案に繋げていきます。



第19回アジア大会 男子 53年振り優勝 女子 2位

世界水泳選手権大会（福岡）

男子 11位
女子 14位

世界水泳選手権大会（ドーハ）

男子 13位

2023年度 6つの課題

- | | | |
|-----------|-----------|---------|
| ①広報戦略 | ②スタッフ処遇確保 | ③財務基盤構築 |
| ④アクアゲーム展開 | ⑤専門強化拠点 | ⑥国内競技会 |

／アーティスティックスイミング強化事業

4. AS強化事業

2023年は、1月よりAQUAの大幅なルール変更が施行され、新ルール対応に迫られた1年となりました。A代表は、ワールドカップカナダ大会（3月）、フランス大会（5月）と参戦し、新ルールの分析と戦略を立て、福岡の世界水泳選手権大会に挑みました。メダルを獲得するには、いかに高難度の脚技を申告通りに実施するかが何よりも重要で、ノーベースマーク（脚技の申告を全て認められること）が絶対条件でした。ソロに専念した乾友紀子は、テクニカル、フリーともに優勝し、世界水泳選手権大会2連覇の偉業を成し遂げました。デュエットテクニカルでは、安永真白・比嘉もえ組が予選12位からの大逆転で22年ぶりの金メダルに輝きました。ミックスデュエットテクニカルでも佐藤友花・陽太郎姉弟組が金メダル、チームフリーで銀メダル、デュエットフリーとアクロバティックで銅メダルに輝き、過去最高の成績を取ることができました。好成績につながった要因は、選手・コーチの頑張

りに加え、本間三和子チームリーダーの情報伝達と戦略が功を奏しました。しかし、最後まで順位の予想ができない種目へと変化し、心理面への影響も強く、秋から心理勉強会を開始しました。

10月のアジア大会（杭州）では、ベースマークにならないことを第1標とし、中国に次ぐ2位となり、パリオリンピックのデュエット出場権を獲得しました。

2月にはパリオリンピック最終予選を兼ねた世界水泳選手権大会（ドーハ）が開催され、チーム種目（テクニカル・フリー・アクロバティックの合計）で、アクロバティックでは7位と出遅れはあったもののテクニカルで3位、フリーで2位と巻き返し、総合3位通過でチーム出場権を得ました。パリオリンピックでの3種目を8名のみでミスなく泳ぎきることの難しさと厳しさを感じた大会となりました。

8月に行われた世界ユース選手権大会ではソロ3位、デュエット2位、チームフリーコンビネーションで優勝し、次世代での存在感を残すことができました。



世界水泳選手権 福岡（金4、銀1、銅2）



アジア大会 杭州（銀）



世界水泳選手権 ドーハ（総合3位）



世界ユース選手権（金2、銀1、銅1）

／オープンウォータースイミング強化事業

5. OWS強化事業

2023年度は世界水泳選手権大会が1年間に2回あるというイレギュラーな年度となりましたが、目標を「パリオリンピック出場権獲得」とし、競技事業を推進しました。

世界水泳選手権大会（福岡）では、個人種目では振るわなかったものの、ミックスリレーにおいて初の入賞を果たしました。また、アジア大会では、女子において銀メダルを獲得することができました。

パリオリンピック出場権を獲得するための最終選考となった世界水泳選手権大会（ドーハ）では、見事**女子が13位**で個人枠、**男子は22位**で大陸代表枠にてオリンピック出場権を獲得しました。特に女子については、序盤から1位でレースを引っ張るなど積極的なレースを行い、パリオリンピックに繋がる良い遠征となりました。

さらに、OWS女子代表選手1名とコーチ1名が競泳の世界水泳選手権大会代表にも選ばれ、OWSと競泳両方に出場し、OWSの後に開催された競泳競技で入賞を

果たすなど、競泳OWS両方で活躍する選手の育成に向けて非常に実りのある大会となりました。

ジュニア世代については、全豪選手権大会に派遣し、リレーおよび個人種目において全員がメダルを獲得することができました。

さらに、競泳国際大会代表選手選考会において、1500m女子自由形では1～3位までがOWSに出場している選手で、全員が競泳インターナショナルCの標準記録を突破しました。また、1500m男子自由形において高校1年生ながら優勝し高校新記録を樹立した選手も、OWS全豪選手権大会で活躍してOWSと競泳両方における競技力強化ができていていると感じています。

OWSにおいて、世界と対等に戦うためには、競泳インターナショナルCの標準記録突破レベルが必要ですから2022年度下期より、ナショナルチームの編成にOWSの結果だけでなく、競泳のタイムも基準に入れ、強化を行ってきました。このことが実を結び始めていると感じるとともに、今後は強化の目標をさらに上げ、OWSの国際大会においてメダルを取れる選手の強化が急務であると考えます。



世界水泳選手権 福岡（混合リレー入賞1）



世界水泳選手権 ドーハ（女子個人枠、男子大陸枠で五輪へ）

6. 科学事業

競泳の国内主要大会で、競泳委員会および日本スポーツ振興センターと連携し、レース分析ならびにレース映像の提供を実施しました。分析結果のネット公開に加え、選手権大会でLINEを用いた映像とデータの配信を行い、データの普及・啓発を推進しました。またレース分析の全国普及を図るための一環として、「燃ゆる感動かごしま国体」会場において固定カメラ映像の取得と配信も行いました。さらに競泳委員会と連携して、エリート小学生研修合宿やナショナル研修合宿における合宿サポートも行っています。

飛込、水球、AS、OWSの各競技についても各委員会と連携し日本選手権などの全国大会や合宿研修会においてサポートを行いました。

2023年日本水泳・水中運動学会年次大会で学会賞を受賞した研究の情報を「月刊水泳」に掲載、その他、各競技の科学サポートなどの記事、トピックスも「月刊水泳」に寄稿しました。

専門委員会の会議活動として、年間10回のオンライン会議とともに部門別の小会議も適宜開催、重点実施項目の確認や各事業実施経過報告の情報共有も行いました。さらにサポート事業に関する意見交換などを充実させることができました

7. 医事事業

- (1) 競技会開催時の感染症ガイドライン：2023年5月にCOVID-19の感染症法上の扱いが5類に移行したため、基本的な感染対策の実施は継続するもののすべてのガイドラインは廃止。
- (2) 競技会救護活動：国内主要大会へ救護医師の派遣および医薬品の配備。主要大会におけるAQUAコロナ感染ガイドラインに示されるCOVID-19 officerの配置は終了。
- (3) 国際大会における医事運営への協力
- (4) 会議活動：2023年6月3日に日本水泳ドクター会議総会・水と健康医学研究会、11月4日に水泳競技メディカルサポート研究会をどちらもオンライン形式併用で開催。

- (5) 教育啓発活動：各種研修会への講師派遣、JSPO公認スポーツドクター、JASP公認ポーツデンティスとアスレティックトレーナー養成講習会への受講者推薦。
- (6) アンチ・ドーピング活動：アンチ・ドーピング委員会と協力して、アンチ・ドーピング活動を実施し、主要競技大会のドーピング検査会場にNF代表役員を配置。
- (7) 各地域メディカルサポート体制の構築：各地域でのメディカルサポート体制を充実させることを目的に、全国を4ブロックに分けて医師とトレーナー合同で研修会を実施。

4) 普及事業／指導者養成事業 ／生涯スポーツ・環境事業

1. 指導者養成事業

前年に引き続き指導者の普及・拡大に向け、各指導者資格の目的・意義の再確認と周知を図りながら養成講習会参加者数増と更新率の向上を目指しました。

地域指導者委員会では、基礎水泳指導員の単年度登録者数は前年より増え1,072名、水泳コーチ2の新規養成講習会は岩手県と青森県で開催され11名が終了しました。水泳コーチ1・2登録者数は2024年3月現在8,944名となりました。7月に開催された全国地域指導者(普及)委員長会議では、基礎水泳指導員・水泳コーチ1・2の更新研修の充実、新規養成の活性化と、これにかかる諸問題解決のため、加盟団体相互の意見交換の場を設け、好事例の共有化を図りました。引き続き加盟団体の協力の下、指導者養成事業を推進していきます。

競技力向上コーチ委員会では、新規養成講習会はオンライン形態で開催し、108名が終了しました。また免除適応校によるコーチ3の新規取得者数は95名でした。資格保有者向けの更新研修会もオンラインで実施し、コーチ登録者数は、4,028名(2024年3月現在)となりました。さらに2023年度もデベロップメント・ワークショップを開催しました。

水泳教師委員会では、(一社)日本スイミングクラブ協会(SC協)と連携し、養成・研修会事業を実施しました。コロナ禍の影響は急速に世の中の変化をもたらし、教師登録者数は、2,314名(2024年3月現在・対前年比95名減少)と減少傾向が続いています。この事業においても新しいシステム化の必要性に迫られています。

運動部活動の地域移行や小・中学校水泳授業の民間連携の動きもある中で、引き続き水泳の安全性と指導者の資質向上を目指し、公的資格保有の義務化も視野に入れたJSPOの施策と連携し、指導者養成事業を展開していきたいと考えています。

2. スポーツマスターズ大会

本大会は、生涯スポーツのより一層の普及と振興を目的とし、JSPOとの共催による「スポーツ愛好者の中で競技志向の高いシニア世代を対象とした大会」です。本年度は福井県敦賀市総合運動公園にて38都道府県から648名が参加して実施され新記録も出て大いに盛り上がりました。

3. 水泳の日2023

8月13日に広島県広島市のひろしんビックウェーブ・マエダハウジング東区スポーツセンタープールにおいて「水泳の日2023.広島」を開催しました。このイベントは、本連盟の掲げる使命のひとつ「国民皆泳」を目指した事業です。世代を超えて「命を守ることができるスポーツ」水泳のさらなる普及発展、競技力向上、競技人口の裾野を広げ

るきっかけとして実施されています。なお2023年度は、主催が本連盟、(社)日本スイミングクラブ協会、(一社)日本マスターズ水泳協会、(一社)日本パラ水泳連盟の水泳4団体と、(一財)広島県水泳連盟、広島市水泳連盟、共催に広島県と広島市を迎えて開催しました。久しぶりに観覧席に多くの観客が入り、総入場者数も2,093名にのぼり大いに盛り上がりました。加盟団体主催では、東京会場、金沢会場、郡山会場、愛知・名古屋会場、大阪会場、高知会場の6会場にて開催されました。

①エキシビション(公開型イベント)

始泳式では、地元広島県出身のオリンピック金メダリストの金藤理絵さんをはじめ、パラリンピック日本代表の崎本龍司さんが得意な泳法を披露しました。さらに日本泳法の神伝流一門による諸手拔雁行や水書などの模範演技が行われ、フィナーレには世界水泳選手権大会(福岡)で日本史上初のソロ2冠、2連覇に輝いたAS日本代表の乾友紀子選手の模範演技が井村雅子代表コーチの解説によって行われました。

②アクアティクス体験(参加型イベント)

競技イベントとして子どもから大人までが参加する「ふれあいリレー」や「チャレンジリレー」「泳力検定」「ターゲットタイム」などを実施しました。体験イベントは、「TOBIUOクリニック(競泳)」や「Mermaidレッスン(AS)」「SAMURAI スイミング(日本泳法)」「ブラインドスイミング体験会」「水中動画撮影会」「翼レッスン(飛込)」を実施しました。競技イベント、体験教室ともに多数のオリンピックの協力により大いに盛り上がりました。

4. 泳力検定

本事業は、生涯スポーツとしての水泳の普及を目的に1998年から実施しています。トビウオジャパンの活躍で、泳力検定会も全国各地で開催され、泳力検定事業が水泳愛好者に浸透してきたことを示しています。本年度もオリンピックをゲストに招き「ニチレイチャレンジ特別泳力検定会」を東京・愛知・福島・高知・岡山など全国21カ所で開催しました。また、さらなる泳力検定の普及のため、泳力検定システムの運用促進やHPおよび公式SNSを活用した広範な情報発信に努めました。

5. 環境活動「Wear to Fashion」

スポーツによる社会貢献活動の一環として、衣類の循環で「捨てない選択肢」を提供し、未来へつなげるプロジェクト「Wear to Fashion」を実施しました。水着やチームウェア等を回収してリサイクル・リユースに繋げる取り組みを東京アクアティクスセンターで開催された国際大会代表選手選考会をはじめ複数の大会で行いました。

／オープンウォータースイミング普及事業

6. OWS普及成事業

OWSの安全な普及に必要な事業を以下のとおり実施しました。

1. OWSスイムクリニック、OWS検定事業の開催

- ①スイムクリニック参加者合計193名
- ②検定参加者合計 177名

2. OWS審判員養成

- ①審判講習会（4月2日、1月14日リモート開催、2月18日対面開催）
参加者合計85名

3. OWS指導員養成

- ①指導者講習会 0名

4. OWS公認コーチ養成

- ①OWS公認コーチ3養成講習会 13名
- ②OWS公認コーチ4養成講習会 0名

5. 認定OWS大会の標準化と拡大

- ①認定OWS大会支援（2023年6月～10月）
（静岡お茶・阿久根・南紀田辺・中海・屋久島・尾鷲・ひめじ家島・佐渡・館山・釜石・琵琶湖・屈斜路湖・湘南・愛知・泉南・せとうち・須崎）計17大会（合計5,633名参加）への審判員・安全管理員派遣
※静岡お茶・屋久島大会は荒天のため中止
- ②認定OWS大会・全国担当者会議の開催（2023年11月27日リモート会議）

6. 認定OWS大会サーキットシリーズ年間優秀選手表彰

- ①全15大会ポイントランキング男女各総合1位に優勝楯を進呈、年代別男女各上位3位までに表彰状とスイムタオルを進呈

／日本泳法保存事業

(1) 第68回日本泳法大会

本大会は、わが国近代水泳史の礎となった日本泳法の後継者育成と技能の保存と普及を目的に1956年より開催され、現存13流派のジュニア（中学生以下）からシニア層までが参加できるよう、12種目の競技と7資格の審査から成っています。

本年度は8月19日～20日の日程で千葉県習志野市において開催しました。全国から役員、選手併せて560名の参加があり全ての競技と資格審査を実施しました。

(2) 第71回日本泳法研究会（課題：岩倉流）

3月23日～24日の日程で和歌山県和歌山市において、当地で継承される「岩倉流」を課題として開催したところ、全国からおおよそ250名の参加がありました。初日は、現南川師範と前那須師範による岩倉流の歴史と泳法についての研究発表があり、2日目には秋葉山公園県民水泳場において、岩倉流泳者による実技発表の後、参加者がプールに入って岩倉流泳法を体験しました。初日夜には懇親会を開催、全国の日本泳法の仲間と実際に顔を合わせ、それぞれの泳法について語り合うことができました。

(3) 許士資格審査会、日本泳法研鑽会

- 5月14日 千葉県国際水泳場において第18回日本泳法研鑽会 参加19名
- 3月24日 秋葉山公園県民水泳場において第19回日本泳法研鑽会 参加9名
許士審査会 受査52名 合格4名

(4) 日本泳法プロモーションビデオの活用

日本泳法の認知度を国内外において高めるための広報施策として、2022年度に制作した日本泳法プロモーションビデオを13流派団体と加盟団体に配布しました。

今後も様々な場面で活用を図り、日本泳法の更なる普及につなげていきたいと考えています。

(5) その他

第68回日本泳法大会と第71回日本泳法研究会の開催にあわせ、「流派連絡会議」「資格審査専門委員会」を開催しました。

また、第68回日本泳法大会の前日と第71回日本泳法研究会にあわせて「審判研修会」を実施しました。

／機関誌発行事業・広報事業

(1) 機関誌「月刊水泳」発行事業

22年ぶりの自国開催となった世界水泳選手権大会(福岡)、中国・杭州でのアジア大会の主要国際大会レポートを中心に、国内外の大会レポートを掲載。さらに大会ごとの総評も各委員会担当者に執筆いただき掲載しました。

また、2023年5月の新型コロナウイルス感染症の5類への移行に伴い、2020年から始まった感染症対策のまとめを連載しました。

(2) ホームページの管理・更新事業

2023年度は機関誌のWeb化を想定した準備を進めると共に、例年通り主要大会のトピックスの掲載を行いました。トピックスについては種別ごとに掲載する形に変更しました。トップページからの各種アクセスが容易になったことによりトピックスへの流入も増える結果となりました。

(3) 報道対応事業

大会におけるミックスゾーンの対応、各種別の公開練習対応等含め、そのほとんどを新型コロナウイルス感染症が流行する前の状態に戻すことができました。ただし、管理の問題と場所のキャパシティの問題から、来場制限については拡大しつつも継続することとなりました。この点についてはプレス側と協議が必要です。さらに2024年3月の国際大会代表選手選考会においては国際大会基準の運営を目指し、メディアトリビューンを観客席に移行して、FOP内には記者が立ち入らないようにしました。それに伴い、反対にスチールエリアをスタンドサイドに設置することで販売席数を増加させ、選手、メディア観客の区分けを明確にしました。

(4) 公式SNS

Xについてはインサイトが有料化してしまったため詳細は調べられなくなりましたが、フォロワー数は3,000を超えました。Instagramは約4,600、Facebookは約300の増加となりました。また、リーチ数は大幅増、Facebookは約30万、Instagramは約60万となりました。2022年度比較でFacebookは約500%、Instagramは約600%という結果となりました。

／アスリート委員会関係事業

(1) 現役アスリートの意見集約

委員と水泳の指導現場からの考えや意見を集約し、常務理事会、特別強化委員会へ提出しました。現役アスリートによる意見集約をより具体的に進めるために、各競技の現役アスリートによる本委員会へのオブザーバー参加を上程し認められました。

(2) 現役アスリートへのサポート

キャリアアトランジションの研修会、月経啓発ビデオの作成、LGBTQ+の啓発イベントを実施しました。JOCアスリート委員会、他NFのアスリート委員会との意見交換会に参加しました。

(3) ジュニアアスリートへの動機づけ

JOC全国ジュニアオリンピックカップ水球競技大会(春季)にて、ジュニアアスリートを対象としたオリンピックによるトークイベントを実施しました。各種目の全国大会出場経験のあるアスリートとその関係者を対象にAS世界水泳選手権大会2連覇を達成した乾友

紀子氏を中心としたオリンピックゲストによるオンライントークセッションを実施しました。

(4) 水泳の普及への貢献

水泳の日、泳力検定、スイムスマイルプロジェクトへオリンピックを派遣し、普及活動を行いました。ユニセフ「子どもの権利とスポーツの原則」の宣言【すべての子どものすこやかな成長のための水泳環境づくり宣言】のPR動画を各競技会において放映し、子どもたちが楽しく安心して水泳に打ち込める健全なスポーツ環境実現に向けてメッセージを発信しました。

(5) オリンピアンOBOG会のネットワーク強化

水泳の日の開催に合わせて、オリンピックOBOG会を開催しました。競技委員会の協力のもと、オリンピックOBOGに対し、オリンピックシート申請などの情報を提供しました。オリンピックOBOG会への登録の呼びかけを再度行い、多くの方々に本連盟事業への理解協力ならびに、水泳普及事業への協力を依頼しました。

2023年度日本新記録および学生・高校・中学・学童記録の公認

		4/9			6/1			7/31			8/20			8/26		
長水路	日本記録	2	男子 女子 混合	2		男子 女子 混合			男子 女子 混合			男子 女子 混合			男子 女子 混合	
	学生記録	2	男子 女子	2		男子 女子		1	男子 女子	1	1	男子 女子	1		男子 女子	
	高校記録		男子 女子			男子 女子			男子 女子		2	男子 女子	1 1		男子 女子	
	中学記録		男子 女子			男子 女子			男子 女子		1	男子 女子	1		男子 女子	
	学童記録		男子 女子			男子 女子		1	男子 女子	1		男子 女子		2	男子 女子	2
短水路	日本記録		男子 女子 混合		8	男子 女子 混合	7 1		男子 女子 混合			男子 女子 混合			男子 女子 混合	
	学生記録		男子 女子 混合		8	男子 女子 混合	4 3 1		男子 女子 混合			男子 女子 混合			男子 女子 混合	
	高校記録		男子 女子			男子 女子			男子 女子			男子 女子			男子 女子	
	中学記録		男子 女子			男子 女子			男子 女子			男子 女子			男子 女子	
	学童記録		男子 女子			男子 女子			男子 女子			男子 女子			男子 女子	

		9/3			10/15			10/22			11/26			12/3		
長水路	日本記録		男子 女子 混合		2	男子 女子 混合	2		男子 女子 混合			男子 女子 混合			男子 女子 混合	
	学生記録	1	男子 女子	1		男子 女子			男子 女子		1	男子 女子	1	1	男子 女子	1
	高校記録		男子 女子			男子 女子			男子 女子			男子 女子			男子 女子	
	中学記録		男子 女子		1	男子 女子	1		男子 女子		3	男子 女子	3		男子 女子	
	学童記録		男子 女子		1	男子 女子	1		男子 女子		1	男子 女子	1		男子 女子	
短水路	日本記録		男子 女子 混合			男子 女子 混合			男子 女子 混合			男子 女子 混合			男子 女子 混合	
	学生記録		男子 女子 混合			男子 女子 混合		1	男子 女子 混合	1		男子 女子 混合			男子 女子 混合	
	高校記録		男子 女子			男子 女子		1	男子 女子	1		男子 女子			男子 女子	
	中学記録		男子 女子			男子 女子			男子 女子		1	男子 女子	1		男子 女子	
	学童記録		男子 女子			男子 女子			男子 女子		1	男子 女子	1		男子 女子	

		3/10			3/31			合計		
長水路	日本記録		男子 女子 混合			男子 女子 混合		4	男子 女子 混合	2 2 0
	学生記録	1	男子 女子	1	2	男子 女子	2	10	男子 女子	8 2
	高校記録	4	男子 女子	4	3	男子 女子	2 1	9	男子 女子	7 2
	中学記録	1	男子 女子	1	3	男子 女子	3	9	男子 女子	9 0
	学童記録	8	男子 女子	8	2	男子 女子	1 1	15	男子 女子	1 14
短水路	日本記録		男子 女子 混合			男子 女子 混合		8	男子 女子 混合	7 1 0
	学生記録	3	男子 女子 混合	1 2		男子 女子 混合		12	男子 女子 混合	6 5 1
	高校記録	2	男子 女子	2	10	男子 女子	7 3	13	男子 女子	10 3
	中学記録	1	男子 女子	1	6	男子 女子	6	8	男子 女子	8 0
	学童記録	7	男子 女子	2 5	6	男子 女子	1 5	14	男子 女子	3 11

長水路
合計
47

短水路
合計
55

新記録
合計
102

令和5年度 有功章受章者

No	推薦団体	氏 名
1	(一財) 北海道水泳連盟	本田 利幸
2	(一社) 青森県水泳連盟	岩淵 融義
3	(一社) 岩手県水泳連盟	小野寺政好
4	(一財) 宮城県水泳連盟	鶴岡 勝彦
5	(一社) 秋田県水泳連盟	櫻尾 生
6	(一社) 山形県水泳連盟	植松 正巳
7	(一社) 福島県水泳連盟	末永 敏則
8	(一社) 茨城県水泳連盟	荻 敦
9	(一社) 栃木県水泳連盟	鈴木 賢二
10	(一社) 群馬県水泳連盟	平田 明仁
11	(一社) 埼玉県水泳連盟	水尾 亨
12	(一社) 千葉県水泳連盟	森 秀俊
13	(公財) 東京都水泳協会	佐藤 郁
14	(公財) 東京都水泳協会	檜垣 浩行
15	(一社) 神奈川県水泳連盟	木下 泰雄
16	(一社) 神奈川県水泳連盟	金丸 太郎
17	(一社) 山梨県水泳連盟	川口 智之
18	(一社) 長野県水泳連盟	湯原 憲造
19	(一財) 新潟県水泳連盟	野口 剛
20	(一社) 富山県水泳連盟	藏堀 茂博
21	(一社) 石川県水泳協会	藤田 信好
22	(一財) 福井県水泳連盟	東角 操
23	(一社) 静岡県水泳連盟	稲葉 徳行
24	(一社) 愛知県水泳連盟	小久保正之
25	(一社) 愛知県水泳連盟	国京 敏光
26	(一社) 三重県水泳連盟	伊藤 雄介
27	(一社) 岐阜県水泳連盟	河合 保孝
28	(一社) 滋賀県水泳連盟	内記 一彦
29	(一社) 京都水泳協会	植田 恭志
30	(一財) 大阪水泳協会	山西 祐子
31	(一財) 大阪水泳協会	奥村 雅一
32	(一社) 兵庫県水泳連盟	金 一波

No	推薦団体	氏 名
33	(一社) 兵庫県水泳連盟	村田 妙子
34	(一社) 和歌山県水泳連盟	山本 芳一
35	(一財) 鳥取県水泳連盟	安田千万樹
36	(一財) 島根県水泳連盟	石飛 博志
37	NPO 法人 岡山県水泳連盟	陸田 祐一
38	(一財) 広島県水泳連盟	富永 健三
39	(一財) 山口県水泳連盟	荒川 勝美
40	(一社) 香川県水泳協会	向原 成剛
41	(一社) 徳島県水泳連盟	芳村 伸
42	(一社) 愛媛県水泳連盟	福島 孝志
43	(一社) 高知県水泳連盟	堤 初恵
44	(一社) 福岡県水泳連盟	井上 欽弘
45	(一社) 佐賀県水泳連盟	峯 哲也
46	(一社) 長崎県水泳連盟	永山 安幸
47	(一社) 熊本県水泳協会	前川 深
48	(一社) 大分県水泳連盟	栗山 共造
49	(一財) 宮崎県水泳連盟	佐藤 幸江
50	(一社) 鹿児島県水泳連盟	岩元 祥人
51	(一社) 沖縄県水泳連盟	親川 照生
52	(一社) 日本スイミングクラブ協会	江尻 博子
53	飛込委員会	小谷理貴子
54	水球委員会	古海 敏勝
55	アーティスティックスイミング委員会	滝田理砂子
56	オープンウォータースイミング委員会	柿崎 美香
57	科学委員会	笹原千穂子
58	競技委員会	原田 由梨
59	学生委員会	松波 勝
60	水泳教師委員会	益子 一穂
61	施設用具委員会	黒澤 徳仁
62	情報システム委員会	濱崎 泰造
63	総務委員会	嶋岡 正和
64	生涯スポーツ・環境委員会	簾内 望

以上 64人



①最優秀・優秀選手賞

(最優秀選手)

・競 泳

本多 灯 22 日本大学（4年）・イトマン東京

(優秀選手)

・競 泳

松元 克央 27 ミツウロコ・三菱養和スイムスクール
 柳川 大樹 21 明治大学（3年）・
 イトマンスイミングスクール港北校
 渡辺 一平 27 トヨタ自動車(株)
 瀬戸 大也 29 CHARIS&Co.
 小方 颯 20 日本大学（2年）
 鈴木 聡美 33 ミキハウス
 三井 愛梨 19 法政大学（1年）・
 横浜サクラスイミングスクール
 成田 実生 17 淑徳巣鴨高等学校（2年）・
 金町スイミングクラブ
 大橋 悠依 28 イトマン東進
 青木玲緒樹 29 ミズノ
 寺田 拓未 26 ミキハウス
 横浜サクラスイミングスクール
 田渕 海斗 21 明治大学（3年）・
 NEC グリーンスイミングクラブ溝野口
 梶本 一花 20 同志社大学（2年）・
 枚方スイミングスクール

・水 球

棚村 克行 34 (株)ブルボン・
 ブルボンウォーターポロクラブ柏崎
 足立 聖弥 28 (株)イカイ・
 IKAI・Kingfisher74
 渡邊 太陽 22 日本体育大学（4年）・京都踏水会水泳学園
 萩原 大地 21 日本体育大学（3年）
 伊達 清武 26 東京ガス横浜中央エネルギー(株)・
 IKAI・Kingfisher74
 鈴木 透生 24 サコス(株)・IKAI・Kingfisher74
 新田 一景 25 (株)ブルボン・
 ブルボンウォーターポロクラブ柏崎
 高田 充 28 (株)イカイ・IKAI・Kingfisher74
 荒井 陸 30 環境機器(株)・IKAI・Kingfisher74

稲場 悠介	23	(株)ブルボン・ ブルボンウォーターポロクラブ柏崎
大川 慶悟	34	秀明大学職員・IKAI・Kingfisher74
荒木 健太	28	(株)CNC グループコスモネット・ IKAI・Kingfisher74
西村 永遠	26	(株)イカイ・IKAI・Kingfisher74

・アーティスティックスイミング

乾 友紀子	33	運動器ケアしまだ病院・ (公社)井村アーティスティックスイミングクラブ
安永 真白	24	岡三リビック(株)・ (公社)井村アーティスティックスイミングクラブ
比嘉 もえ	16	(公社)井村アーティスティックスイミングクラブ
吉田 萌	28	愛知学院大学職員・ザ、クラブ ピア・88
木島 萌香	24	アース製薬(株)・ (公社)井村アーティスティックスイミングクラブ
佐藤 友花	22	筑波大学(4年)・ ジョイフルアスレティッククラブ
柳澤 明希	25	東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)
和田 彩未	20	早稲田大学(2年) 長野アーティスティックスイミングクラブ
藤井 萌夏	19	中京大学(1年)・ザ、クラブ ピア・88
島田 綾乃	17	みえA. S. C
鈴木ひかり	21	日本体育大学(3年)・アクラブ調布
小林 唄	21	国土館大学(3年)・ 長野アーティスティックスイミングクラブ
廣田 憩	20	同志社女子大学(2年)・ (公社)井村アーティスティックスイミングクラブ
佐藤陽太郎	19	筑波大学(1年)・ ジョイフルアスレティッククラブ

(優秀コーチ)

塩田 義法	日本体育大学
-------	--------

②東京都運動記者クラブ水泳分科会新人賞

三井 愛梨	法政大学(1年)・ 横浜サクラスイミングスクール
-------	-----------------------------

／優秀団体および個人の表彰

③スポーツ関係団体表彰

優秀賞

水 球

第 19 回アジア競技大会男子日本代表チーム

競技団体別最優秀賞

比嘉 もえ

四天王寺高等学校（1 年）・

(公社)井村アーティスティックスイミングクラブ

安永 真白

岡三リビック(株)・

(公社)井村アーティスティックスイミングクラブ

(ウ) テレビ朝日ビッグスポーツ賞 (テレビ朝日)

ビッグスポーツ賞

乾 友紀子

運動器ケアしまだ病院・

(公社)井村アーティスティックスイミングクラブ

ビッグスポーツ特別賞

比嘉 もえ

四天王寺高等学校（1 年）・

(公社)井村アーティスティックスイミングクラブ

安永 真白

岡三リビック(株)・

(公社)井村アーティスティックスイミングクラブ

(エ) ミズノスポーツメントール賞

中島 貴子

日本オリンピック委員会

④日本記録賞

長水路日本記録賞

(男子) 松元 克央

川本 武史

(女子) 鈴木 聡美

優秀団体および個人の表彰

①全国JOCジュニアオリンピックカップ水泳競技大会 優秀クラブ・団体 (夏季大会)

(ア) 最優秀クラブ (夏季大会)

岩手：JSS 盛岡スイミングスクール

栃木：スウィン大田原スイミングスクール

東京：セントラルウエルネスクラブ成瀬

愛知：稲沢スイミングスクール

岐阜：岐阜スイミングスクール

京都：アイエムスポーツ倶楽部舞鶴

広島：府中スイミングクラブ

福岡：イトマンスイミングスクール太宰府校

(イ) 優秀クラブ (夏季大会)

北海道：スポーツアカデミーブランチ札幌月寒

埼玉：ヒューマンスイミングスクール・みさと

埼玉：埼玉スウィンズスイミングスクール春日部

千葉：ヴェルディススポーツプラザおゆみの

千葉：君津メディカルスポーツセンター

東京：大森双葉スイミングクラブ

長野：ISC 高森スイミングクラブ

静岡：株式会社 浜松スポーツセンター

京都：HOS OGURA

大阪：田尻町水泳連盟

和歌山：ドルフィンズスイミングスクールマコト

佐賀：アクセス・ジャパンスポーツクラブ佐賀

／優秀団体および個人の表彰

②全国JOCジュニアオリンピックカップ水泳競技大会 優秀クラブ・団体（春季大会）

（ア）最優秀クラブ（春季大会）

宮城：JSS 南光台スイミングスクール
山梨：ブルーアース甲西

栃木：フィールドビックスイミングスクール
愛知：稲沢スイミングスクール

（イ）優秀クラブ（春季大会）

茨城：タップスイミング 筑波学園スクール
埼玉：ヒューマンスイミングスクール・みさと
東京：メガロス町田
岐阜：大垣北スイミングスクール
兵庫：ピュアスポーツ柏原
広島：可部スイミングスクール

茨城：アックアセレーナ
千葉：ゴールドジム千葉ニュータウンジョイフルアスレティッククラブ
新潟：新潟水泳協会
大阪：JSS 深井スイミングスクール
和歌山：ドルフィンスイミングスクールマコト
熊本：桜泳ミキ 21

③記念事業並びに栄章規定による優秀団体表彰（第21条1項）

フィットネスクラブウイング弘前
柏崎水泳連盟
タップスイミング牛久育泳館
学校法人 武南学園 武南高等学校
イトマンスイミングスクール昭和の森校
須坂市水泳協会
中京大学附属 中京高等学校
JSS スイミングスクール松坂
サンスポーツクラブ・サンスイミングスクール
JSS 広島スイミングスクール
五百木スイミングクラブ
西原台スイミングスポーツ少年団

アクアスポーツ少年団
JSS スイミングスクール高岡
スウィン前橋スイミングスクール
稲毛インターナショナルスイミングスクール
神奈中スイミングスクール
浜松グリーンスイミングクラブ佐鳴台プール
アクトス恵那
アイエムスポーツ倶楽部舞鶴
岡山市立宇野小学校
光市水泳連盟
(一財)なめしスイミングセンター

④記念事業並びに栄章規定による優秀団体表彰（第21条2項）

古河あかやまスイミングスクール
スウィン大教スイミングスクール・MAT 記念プール
埼玉スウィンスイミングスクール鷺宮
スウィン大宮スイミングスクール本校
埼玉スウィンスイミングスクール熊谷
柏洋スイマーズ江戸川台スクール
公益財団法人東京都水泳協会
東部スイミングスクール
ルネサンス・イオンタウン山科榎辻
イトマンスイミングスクール西神戸校

ナガイスイミングスクール玉村校
スウィン大教スイミングスクール大宮東
スウィン大宮スイミングスクール西校
東松山スイミングスクール
柏洋スイマーズ南スクール
柏洋スイマーズ柏スクール
特定非営利活動法人コミュニティネット SSC 大泉
豊川高等学校
イトマンスイミングスクール玉出校
イトマンスイミングスクール神戸御影校

慶弔関係

(慶)

(敬称略)

きたもと 孝之 北本 孝之	(一財) 鳥取県水泳連盟 監事	藍 綬 褒 章 (業界団体推薦)	2023年4月29日
おさだ としひこ 長田 利彦	(一社) 神奈川県水泳連盟 監事	瑞 宝 小 綬 章 (業界団体推薦)	2022年11月3日
あおき つよし 青木 剛	(公財) 日本水泳連盟 名誉顧問	旭 日 中 綬 章 (業界団体推薦)	2023年11月3日
いずみ ひろし 和泉 洋	(一社) 埼玉県水泳連盟 顧問	旭 日 双 光 章 (地方自治体推薦)	2023年11月3日
ごとう なおゆき 後藤 直之	(公財) 日本水泳連盟・競技副委員長 (一社) 埼玉県水泳連盟・副理事長	文 部 科 学 省 生涯スポーツ功労者表彰 (地方自治体推薦)	2023年10月14日
きたじま こうすけ 北島 康介	(公財) 日本水泳連盟・会賓 (公財) 東京都水泳協会・会長	国 際 水 泳 殿 堂 入 り (業界団体推薦)	2023年9月30日

(弔)

逝去月日(享年)

わたなべ とみお 渡邊 富夫	(一社) 福島県水泳連盟	副会長	2023年3月30日	(74) 歳
おおつぎ りょうたろう 大槻 良太郎	(一社) 福島県水泳連盟	元会長	2023年3月31日	(92) 歳
やまもと しげき 山本 茂樹	(公財) 日本水泳連盟 (一財) 新潟県水泳連盟	参与 元会長	2023年4月6日	(90) 歳
しのだ やすゆき 篠田 靖之	(公財) 日本水泳連盟 (一社) 岐阜県水泳連盟	参与 顧問	2023年4月8日	(84) 歳
ふじい みきお 藤井 幹雄	(公財) 日本水泳連盟	元評議員 元総務委員・元生涯スポーツ委員	2023年4月16日	(62) 歳
しょうじ としお 庄司 敏夫	(公財) 日本水泳連盟	会賓	2023年4月28日	(82) 歳
おがわ しょういち 小川 昭一	(一社) 山形県水泳連盟	顧問	2023年5月10日	(79) 歳
いとう たかみ 伊東 尊見	(一財) 宮崎県水泳連盟	名誉会長	2023年6月3日	(85) 歳
やなぎや としお 柳谷 透	(一社) 青森県水泳連盟	元会長	2023年6月4日	(82) 歳
まつやま まさお 松山 正男	(一財) 新潟県水泳連盟	元副会長・顧問	2023年7月19日	(97) 歳
なかむら かずよし 中村 一良	(一社) 鹿児島県水泳連盟	元会長	2023年7月23日	(83) 歳
おおち ひろし 大地 弘志	(一社) 岐阜県水泳連盟	参与	2023年8月6日	(66) 歳
たどころ ぜんごろう 田所 善五朗	(一社) 高知県水泳連盟	顧問	2023年9月1日	(90) 歳
やまぐち むねひで 山口 宗英	(一財) 宮崎県水泳連盟	地域指導者委員長	2023年9月14日	(62) 歳
まつした ひろし 松下 博	(公財) 日本水泳連盟 (一社) 愛知水泳連盟	参与 顧問	2023年9月17日	(91) 歳
かたぎり りょういち 片桐 良一	(公財) 日本水泳連盟 (一社) 山形県水泳連盟	元会賓 顧問	2023年9月19日	(86) 歳
へんみ 啓 逸見 啓	(公財) 日本水泳連盟 (一社) 山形県水泳連盟	参与 前名誉会長	2023年9月27日	(93) 歳
おさだ としひこ 長田 利彦	(一社) 神奈川県水泳連盟	監事・前副会長	2023年10月5日	(72) 歳
いづみ まさふみ 泉 正文	(公財) 日本水泳連盟 (一社) 日本マスターズ水泳協会	顧問	2023年10月9日	(75) 歳
たけち ひろし 武市 啓志	(一社) 高知県水泳連盟	参与	2023年11月21日	(84) 歳
あかざわ のりたつ 赤澤 詮立	(一社) 熊本県水泳協会	元顧問	2023年12月17日	(97) 歳
うちみ つとむ 内海 勉	(一社) 青森県水泳連盟	パラスポーツ委員長・ 地域指導者副委員長(前委員長)	2023年12月29日	(68) 歳
ひるま としお 蛭間 利雄	(公財) 日本水泳連盟 (一社) 群馬県水泳連盟	参与 名誉会長	2023年12月31日	(92) 歳
うきた あいこ 浮田 美恵子	NPO法人 岡山県水泳連盟	元副会長	2024年1月3日	(93) 歳
ありみつ ようこ 有光 葉子	(一社) 埼玉県水泳連盟	元理事	2024年1月15日	(77) 歳
ももた たもつ 百田 保	(一社) 滋賀県水泳連盟	元会長	2024年2月7日	(87) 歳
おおくま たかし 大熊 嶸	(一社) 岐阜県水泳連盟	元理事長	2024年2月8日	(94) 歳



Japan Swimming Federation